

私たちはご利用者の生活を支援するために24時間がんばります！

ロゼン

ROSEN だより

2022年 4月号

<発行元>

社会福祉法人千葉県福祉援護会

〒273-0047

千葉県船橋市藤原 8-17-2

(ホームページ)

<https://engokai.or.jp/>

(メール)

info@engokai.or.jp

千葉県福祉援護会からの お知らせ

日頃より地域の皆さまには様々な形でご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当法人の広報誌でありました「ローゼンメイト」の発刊を一時お休みさせていただいておりましたが、このたび内容を一新し、「ROSENだより」と名付け、当法人の新しい広報誌として再び発刊させていただく運びとなりました（年2回発刊：4月・10月）。これからも地域の皆さまに関心を抱いていただけるような誌面づくりに励んでまいりますので、今後とも、ご愛読賜りますようお願い申し上げます。

また、新しい基本理念の下、地域共生社会の実現に向けて職員一丸となって様々な活動に日々取り組んでおります。今後も地域の皆さまに寄り添いながら、より一層、地域のお役に立つことができる法人になれるよう尽力してまいりますので、何卒よろしくようお願い申し上げます。

基本理念:すべてのひとが心豊かに暮らすことができる社会形成に貢献します

私たちは、多種多様な福祉に対するニーズを、地域や時代の変化に合わせて的確にキャッチし、福祉を必要とするすべての人たちが心豊かで明るく暮らすことができる社会を目指しています。

次期中期計画について

地域共生社会の実現というスローガンが掲げられて早や4年、当法人では、この2年間のコロナ禍を経て、SDGs（持続可能な開発目標）の5Pのうち「People」、すなわち「人間を守る」ことの重要性を、そして、行っている事業の特性として、人と人との繋がりを欠かすことはできないということ、改めて振り返ることができました。

このようなことを踏まえて、当法人は、令和4年度から取り組む第2次中期経営計画において「ミッション2024 ～人と人とが織り成す新たな価値の創造～」を掲げることと致します。

当法人が行っている各事業は、直接人の手を通じてご利用者、そのご家族、ひいては地域社会に安心をお届けする性格を有していますので、この先いかなるリスクに直面したとしても、当法人は、人を守ることを最大の使命と認識して、地域の皆様からの信頼を受けられるように、公共の利益を創出してゆく様々な取り組みを実践してまいります。

「小さな幸せ 小さな楽しみを」

理事 亀山 幸吉 (淑徳大学短期大学部 名誉教授)



令和3年度第4回定時理事会は2月10日開催されました。

木村理事長はそこでコロナ禍の中、懸命に利用者(保育園児も含め)への支援を惜しまない施設長やスタッフに敬意を表しつつ、これからも〈小さな幸せ 小さな楽しみを共に追求しましょう!〉とのエールをアナウンスされました。この言葉は私の心に突き刺さりました。私は数年前に28年間勤めた淑徳短大の教員を定年退職しました。社会福祉学、介護福祉学、障害者福祉論を主に担当しました。それらの講義で良く引用したふたりの女性がいます。一人は《高村智恵子さん》です。「智恵子抄」で有名ですので福祉を学ぶ学生の知るところです。彼女は夫、光太郎さんとの芸術活動や福島安達太良山での生活が有名ですが彼女は実家(有力な酒屋)が破産し一家離散に追い込まれ、また洋画制作にも行きずまり結婚後、統合失調症(当時は精神分裂と…)になってしまいました。そして私(亀山)の自宅から近い九十九里海岸の一軒家で療養します(昭和が終わる頃、まだ家屋があり行きましたが裸電球が一つあり、二間で昼間でしたが暗い感じでした)。光太郎さんは『風に乗る智恵子』の詩の中で「狂った智恵子は口をきかない……九十九里の浜はけむる……浜千鳥が智恵子の友達……きれいな朝の天空は絶好の遊歩場……智恵子は飛ぶ!」光太郎さんは九十九里の療養地に週に一回は両国から朝7時頃の列車で夕方に外房線大網駅に到着したものと思います。そして療養地に一週間分の薬と彼女の好物を抱え彼女に逢いに向かいました!彼女は嬉しそうに彼を迎えたと記述されています。療養中は洋画制作から離れ《紙絵》に没頭し、日中は近くの海岸で浜千鳥がお相手だったのでしょか。

もうお一人は《金子みすずさん》です。彼女も福祉を学ぶ学生は殆ど知っており特に『みんな違って みんないい』の「私と小鳥と鈴と」の童謡詩は有名です。また最近ではTVコマーシャル?で難病支援としての『星とタンポポ』で「…風のお星は眼に見えぬ、……タンポポは春の来るまで隠れている。強いその根は眼に見えぬ、見えぬけれどもあるんだよ、見えぬものでもあるんだよ。」金子みすずさんは時代的には明治、大正時代に童謡詩作に励まれましたが既に「共生思想を体現」されていたのではないのでしょうか。

今、我が国は《共生社会の実現》がメインテーマです。今回の理事会では各部門から「共生社会実現に向けた目標や実績」の報告があり高く評価されるものと思います。内閣府や厚労省の委員会で同席させて頂いた〈地域包括ケアシステムの発案者と言われている〉慶応大学名誉教授の田中滋先生は地域包括ケアシステムを高年齢ケアに限定している向きがあるが私は高齢者ケアに限定とは言っていない。児童も障害者も孤立せず安心して生活できる地域社会を施設のカも発揮し形成する事が目標です!と語りました。まさに「千葉県福祉援護会」は高齢者、障害者、児童の全てが視野にあります。歴史的には多くの困難な時代がありましたが乗り越えて来ました。今こそ、心を一つに〈小さな幸せ 小さな楽しみを〉実現しようではありませんか!!

基本理念の実現に向けて（各部門より）

（地域福祉推進委員会／地域共生支援部）

『地域共生社会』という言葉が聞かれた事はありませんでしょうか？まだ、耳慣れない方も多いかと存じます。国では【制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会】と説明しております。

私共では地域公益活動の一環として「買い物支援活動」を展開しております。しかしながら新型コロナウイルス感染症の蔓延により、長らく休止せざるを得ない状況となり、皆様にはご不便をお掛けしております。終息が見えた際には、いち早く再開をしたいと考えております。また、コロナ禍の中で新たな「地域のお困りごと」も増えて来たのではないかとお察しします。社会福祉法人として、地域の皆様のお役に立ちたいと考えておりますので、是非ご相談ください。

地域共生支援部：高山 晋



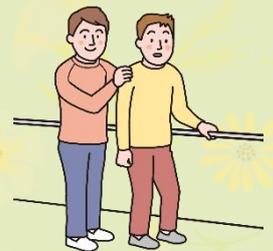
（介護事業部：障害部門）

日頃より施設運営に対するご理解ご協力を賜り誠にありがとうございます。また、長期間にわたる感染症対策への協力につきましてもあらためてお礼申し上げます。

さて、令和3年11月に船橋市肢体不自由児者父母の会様、市川市肢体不自由児者父母の会様の代表者の皆様と意見交換を行わせていただきました。医療的ケア、短期入所利用に関する事、送迎の件等ご意見を頂戴しました。医療的ケアについては医療のバックアップ体制整備が必要となることから、ハードルが高くなっていますが、そうした中でも私たちにできることは何かを検討してまいりたいと考えております。短期入所は介護者の疾病や怪我など緊急性の高い場合はこれまで通りご利用いただけるよう努めてまいります。送迎は現行の支援体制の調整が必要となりますので、見直しや工夫するなどし、なるべくご要望に答えられるよう努めてまいりたいと考えています。

引き続き皆様からのご意見やご要望を頂戴しながら施設運営を行ってまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

障害部門：鈴木 章浩



基本理念の実現に向けて（各部門より）

（介護事業部：高齢介護部門）

皆様には、新型コロナ感染防止のため、入館制限等のご協力に感謝申し上げます。蔓延防止は解除となりましたが、高齢者施設の緊張感は何ら変わらない状況にあります。

さて、令和4年度は、超高齢社会による「認知症ケア、医療的ケア、孤独と孤立（高齢者のみ世帯又は単身世帯の増加）、ヤングケアラー（若年世代による介護）、ダブルケア（子育てとの同時介護）、就労人口の減少等」様々な課題に対し、我々が有する在宅と施設サービスの総合力でワンストップサービスの実践に努めて参ります。そのため、①災害と感染対策の見直し強化、②地域貢献活動の再開、③専門職員の多様性のある採用、④ITを活用した働きやすい環境づくり、⑤あらゆる機会を通じた職員育成を重点事項として位置づけ、高齢者の皆様が安心して住み慣れた地域で暮らすことができるよう、職員一丸となって取り組む所存で御座います。



高齢介護部門：小林 陽司

（保育部）

船橋市・千葉市に開園して以来、両保育園とも10年以上の月日が経ちました。これまで地域の皆様には園運営にご理解ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

コロナが流行して以来地域交流も自粛になっておりますが、地域の皆様との交流はお子様の経験の幅を広げるだけでなく、心の育ちに繋がる貴重な体験です。今後新しい生活様式を取り入れた交流活動を模索しながら、コロナ収束後の再開を目指し、準備していきたく思います。

現在、両保育園ともブログを活用して保育園の取り組みや、保育の楽しさを発信させて頂いております。今後も様々な情報を発信し、保育の見える化を図ってまいりますので、どうぞご覧ください。

今世界中で注目されているSDGsですが、未来を生きる子どもたちのために、今を生きる私たち大人が真剣に考えていかなければなりません。是非皆様のお知恵をお貸しください。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

保育部：恒松 珠美

